カトレア類の発育形態について

1. 試験のねらい

県内で栽培されている主要品種は複雑な種属間交配によるものが多く、今後の育種も、より複雑化の方向で進められることが推定される。しかし、こうして育成された品種は栽培環境が原生地とは大きく異なるうえに、個々の品種の生態、形態等に関する知見が極めて少ないこと、更に繁殖方法が実生からメリクロンに移りつつあることなどから栽培技術上、種々な問題が生じている。

そこで本県における主要品種の現栽培環境における基本的な発育形態等を明らかにするため発生順位別シュートの形態、栄養生長相から生殖生長相への転換期及びその時期の外観形態等について検討した。

2. 試験方法

供試品種については生育・開花特性を異にする1グループ（年に2回シュートを発生し、同一開花期のLc. Irene Finney, Blc. Amy Wakasugi ）、2グループ（年に2回シュートを発生し、年2回開花するBc. Mem. Helen Brown ）、3グループ（年に1回シュートを発生し、年1回開花するPot. Lemon Tree, L. Purpurata ）のそれぞれの品種を選び1と2グループは1984年に3グループは1983年にフラスコ出しした苗を、栃木農試及びU洋ラン園のガラス温室で慣行により栽培し、1987年の開花までの発育形態を調査した。

(1) 基本的発育形態については、シュートの発生部位、シュートの発育速度及び開花バルブエージの開花時期について調べた。なお、バルブエージはフラスコ内で初めに形成されたシュートをⅠ－1とした。

(2) 栄養生長相と生殖生長相の推移については葉身長・幅・シュート長・径について調査した。

3. 試験結果及び考察

栃木県内で栽培されている主要品種のバルブエージと開花との関係についてはエージⅠ－1のシュートでは3節までが匍匐茎となり、4節が僅かに肥大してバルブを形成する。各節は鞘葉で包まれる。5節は葉身に発達する。バルブの3節下位の腋芽が発達して次のシュート形成する。

エージⅠ－2～Ⅲ－2のシュートでは5～6節目の節間が肥大してバルブを形成し、6～7節目が葉身を形成する。

エージⅣ－1～Ⅳ－2のシュートは6～7節がバルブを形成し、7～8節が葉身を形成して、花熟エージに達する。

従って、カトレア類の生長相はエージⅢ－2までが栄養生長相、Ⅳ－1からが生殖生長相と考えられる。

花熟エージに達した健全なシュートでは葉身長／バルブ長＝3～2の範囲にある。この比率がバルブの生長不足によって崩れると、花熟エージに達したシュートでもブラインドやブラスティングにより開花しない。なお、ブラインドやブラスティングについては、他にシュートの形態形成ある

いは栄養条件、光周性、温度要因にも大きく支配されることが報告されているので、これらの条件との関係については今後更に検討を要する。

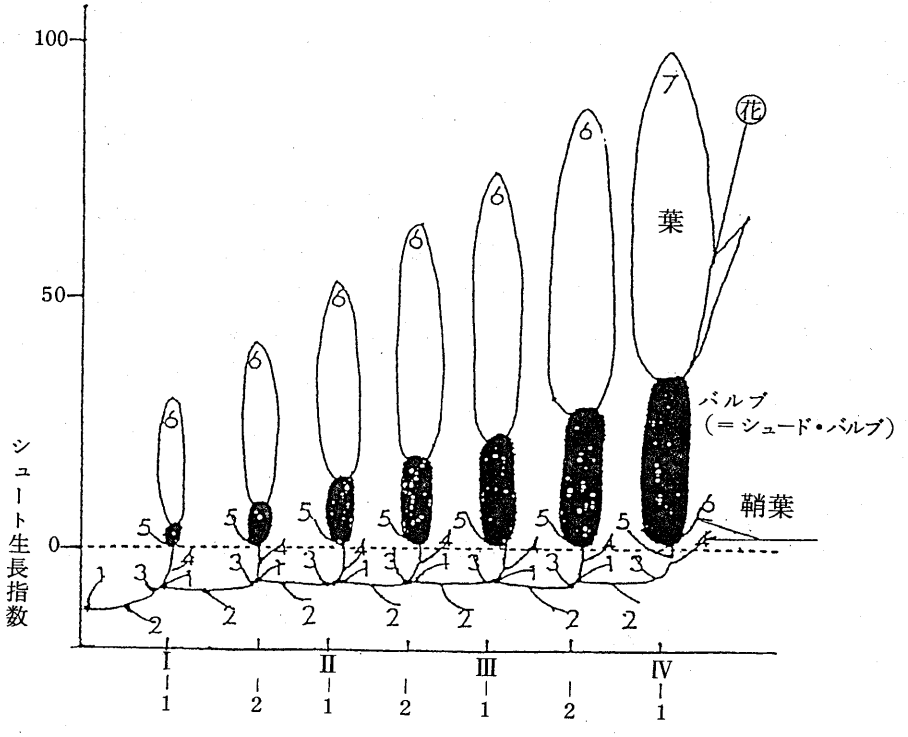

図　カトレアの発育形態

4. 成果の要約

栃木県内で栽培されている主要品種の生育・開花形態について調査した結果、発育形態について、次のことが明らかになった。

(1) カトレア類では、シュートのエージⅠ－1～Ⅲ－2が栄養生長相、エージⅣ－1からが生殖生長と考えられ、グループ1～3による差は認められなかった。

(2) 花熟エージでは葉身長：バルブ長が3～2の関係に有り、この比率関係が崩れるとブラインドやブラスティングが発生しやすくなると考えられる。

（担当者　花き部　久地井恵美）